

受益者の皆さまへ

コモンズ投信株式会社

代表取締役社長兼最高運用責任者 伊井 哲朗

【特別レポート】～当社運用ファンドの基準価額の下落とファンドの対応につきまして～

○1月27日の当社運用ファンドの基準価額騰落率(前日比)

	基準価額	前日比	騰落率
コモンズ 30 ファンド	35,474 円	▲ 1,149 円	▲ 3.1%
ザ・2020 ビジョン	20,777 円	▲ 1,058 円	▲ 4.8%
コモンズ 30+しずぎんファンド	15,881 円	▲ 453 円	▲ 2.8%

<ご参考>

	1月27日終値	前日比	騰落率
TOPIX(東証一部株価指数)配当込	2,940.1	▲ 78.86	▲ 2.6%
日経平均株価	26,170.3	▲ 841.03	▲ 3.1%
東証マザーズ指数	728.25	▲ 51.58	▲ 6.6%

1.本日の市場動向

本日の東京株式市場で日経平均株価は26,170円、前日比841円安(▲3.1%)の大幅安となり、昨年来安値を更新しました。米連邦準備理事会(FRB)のパウエル議長は、昨日に終了した米連邦公開市場委員会(FOMC)後の会見で、インフレ抑制に向けて3月に利上げを始める方針を示すと同時に、FRBの保有資産の縮小についても言及しましたが、市場は、年内の4~5回の利上げを想定し、早期の保有資産圧縮も進むとみて金融政策の正常化が早まるとの警戒を強くしました。本日の東京株式市場は前日比小幅高で始まりましたが、米市場で取引終了後の時間外取引で米株価指数先物が急落し、その流れを受けて、日本株にも断続的に売りが続くなか、ハイテク株や半導体関連株などのほか、鉄鋼や自動車などの割安株にも売りが広がりほぼ全面安となりました。

2.コモンズ投信代表取締役社長兼最高運用責任者 伊井 哲朗 からのメッセージ

年初から株式市場は下落を始めていましたが、本日はややパニック的な売りも含め急落しましたので、当面の運用方針をご説明させていただきます。

本日の急落の切っ掛けは、米国の金融政策正常化の加速化とそのプロセスに対する不確実性の高まりからです。米国のインフレ率は7%と近年では極めて高い水準です。

一方で、米国の政策金利は0~0.25%とコロナ禍対応により極めて低い状態です。昨晚、米国では金融政策を決めるFOMC(米連邦公開市場委員会)が開かれ、このインフレ率と政策金利とのギャップの解消に向けて、利上げペースの加速化や利上げ幅の拡大などを積極的に行う姿勢を明確にしました。世界の金融市場は、米国金融政策の正常化は想定していましたが、この積極姿勢には驚きを感じ株式などリスク資産の圧縮に動きました。ヘッジファンドはじめ金融機関は運用面においてはリスク管理上も売らざるをえない場面にもなっています。もちろん、株式市場は売る投資家もいれば買う投資家もいて値段が付きますので、この局面をチャンスと捉えて買い姿勢になっている投資家もいるわけです。

NY ダウやナスダックなどの米国株価指数、日経平均株価指数などがどこまで下げるのかの目途や、いつ安値を付けるのかは誰にもわかりませんし、私たちはコモンズ 30 ファンドもザ・2020 ビジョンも厳選した企業への投資を行っていますので、株価指数の値動きに左右される投資を行ってはいません。

あくまでも企業の価値と株価を比較して投資価値が高いと判断すれば買い増しを行います。今週に入り企業の決算発表が始まっています。例えば、コモンズ 30 ファンドの投資先のディスコは 2 期連続の最高益予想で配当の増配を発表、また、本日も信越化学工業は最高益予想を上乗せし増配を発表しています。こうした企業の株価もこの局面では下落しています。つまり企業価値は高まっているにも関わらず株価は大きく下げているわけです。もちろん株価は先々の景気状況を先取りしますので、この企業価値の向上の持続性と今の株価を十分に吟味して投資判断をしています。

ザ・2020 ビジョンの投資先についても同様の投資姿勢ではありますが、同ファンドの投資先はコモンズ 30 ファンドと比較すると、より高い成長を期待されている企業が多く入っていますので、米国の金利上昇が景気減速につながる懸念などから世界的にこの期待値の修正が行われている影響が出ています。

いずれにしても、私たちは投資先企業に対しては強い自信を持っていますし、この局面では企業価値に対する株価の評価をより厳密に行っています。まだ、しばらくは株式市場も変動が大きな時期が続くと思いますが、長期的な資産形成にはよい投資機会の時期とも言えると考えています。私たちも引き続き丁寧な運用を心がけていきますので、どうぞ一緒にこの局面を頑張って乗り越えていきましょう。よろしくお願い申し上げます。

以上

ファンドの費用について

購入時手数料	<p><コモンズ投信の場合>ありません。</p> <p><委託会社が指定した販売会社の場合>販売会社が、別途定める購入申込手数料を申し受ける場合があります。なお、販売会社における購入申込手数料率は3.3%(消費税込)が上限となっております。</p>
換金時手数料	ありません。
運用管理費(信託報酬)	<p><コモンズ 30 ファンドの場合></p> <p>ファンドの純資産総額に年 1.078%(消費税込)を上限とした率を乗じて得た額とします。なお、基準価額は、信託報酬控除後のものです。信託報酬は、純資産総額の一定の増加により逡減する仕組みになっています。</p> <p><ザ・2020 ビジョン、コモンズ 30+しずぎんファンドの場合></p> <p>ファンドの純資産総額に年 1.265%(消費税込)を上限とした率を乗じて得た額とします。なお、基準価額は、信託報酬控除後のものです。信託報酬は、純資産総額の一定の増加により逡減する仕組みになっています。</p>
信託財産留保額	ありません。
その他の費用・手数料	<p>当ファンドに組み入れる有価証券等を売買する際の売買委託手数料およびこれにかかる消費税等相当額などの実費が投資信託財産より控除されます。また、目論見書・運用報告書等作成費用、監査費用、信託事務に要する諸費用等として純資産総額の0.11%(消費税込)を上限として投資信託財産より控除されます。上記の手数料(費用)等の合計額については、保有期間に応じて異なりますので、上限額等を事前に示すことができません。</p>

ファンドのリスクについて

ファンドは、国内外の株式など値動きのある証券等に投資するため、その基準価額は変動します。したがって、お客さま(受益者)の投資元本は保証されているものではなく、これを割り込むことがあります。委託会社の運用により生じるこうした基準価額の変動による損益は、すべてお客さま(受益者)に帰属します。投資信託は預貯金と異なります。

※リスク要因は、上記に限定されるものではありません。詳しくは投資信託説明書(交付目論見書)をご覧ください。

ご留意事項

- ◆本資料は、コモンズ投信が投資家の皆さまに情報提供を行なう目的で作成したものです。
- ◆このレポートは、信頼性が高いと判断された情報等に基づいて作成しておりますが、その正確性・完全性を保証するものではありません。記載された意見・見通し等は作成日時点のものであり、将来の株価等の動きやファンドの将来の運用成果を保証するものではありません。また、将来予告なしに変更される場合もあります。
- ◆投資信託の取得を希望される方は、必ず目論見書の内容をご確認のうえ、ご自身の判断でお申し込みください。

金融商品取引業者
 関東財務局長(金商)第 2061 号
 加入協会 一般社団法人投資信託協会
コモンズ投信株式会社
 〒102-0093
 東京都千代田区平河町2-4-5
 平河町Kビル5階